

第61回 東日本実業団陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 5月18日(土)~19日(日)

会場 : 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

出場者 : 石原 洸 ・ 加藤 平 ・ 渡辺 瑠偉 ・ 松本 流星
親崎 達朗 ・ 西沢 晃佑

出場種目・出場者・リザルト

| 氏名 | 親崎 | 西沢 |
|-----|----------|----------|
| 開催日 | 5/18 | 5/18 |
| 種目 | 10000m | 10000m |
| 組 | 1組目 | 1組目 |
| タイム | 30'17"72 | 30'43"72 |
| 順位 | 7/24 | 15/24 |

【レポート】

当日は、天気は良かったものの、昨年につき一日中強風の吹き荒れる生憎の気象コンディションとなり、選手達には少々厳しい条件となりました。

レースは、風の影響もあり、各選手とも自重気味に進める展開ではありましたが、そのような中でも力の無い選手は早々に先頭集団から脱落していきます。

当社から出場の親崎と新人の西沢両選手は4000m過ぎまで先頭集団後方に位置し、終始リラックスした走りを見せていましたが、先頭が徐々にペースを上げ出すと、今年度初のレース出場となった西沢は苦しい表情で集団から離れます。

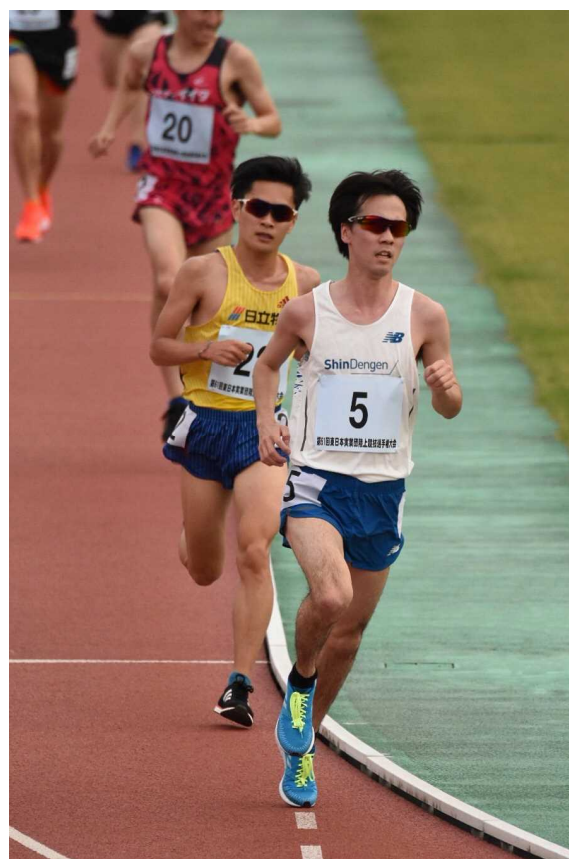
また、今季ここまで調子の良かった親崎も6000m過ぎの先頭争いによるペース変動に対応出来ず、集団から離脱し単独でレースを進める展開となります。

しかし、単独走となってからも二人は気持ちを切らさずに前の集団から落ちてくる選手を確実に拾って順位を上げていき、結果、親崎が30'17"、西沢が30'43"のタイムでゴールしました。

両名とも故障期間を経て、ようやく継続的なトレーニングが積めてきたところでの今季初となる10000m出場ということもあり、本人達もコンディションに多少不安を感じる中で迎えたレースでしたが、次につながる気持ちのこもったレースが出来たと感じます。



親崎選手



西沢選手

出場種目・出場者・リザルト

| 氏名 | 加藤 | 石原 | 松本 |
|-----|----------|----------|----------|
| 開催日 | 5/19 | 5/19 | 5/19 |
| 種目 | 5000m | 5000m | 5000m |
| 組 | 1組目 | 1組目 | 1組目 |
| タイム | 14'51"50 | 15'04"27 | 15'59"20 |
| 順位 | 13/36 | 18/36 | 32/36 |

【レポート】

当日は、昨日とは打って変わり、風も無く、気温 26℃ と少し蒸し暑さのある中で 5000m1 組目のレースが始まり、今季故障から復調した加藤は先頭集団に位置し、中盤までは積極的に記録を狙う展開、石原は 2000m 以降はスピード変化に対応出来ずに集団から置いていかれる展開、松本は結果を残した長野マラソン出場後のトラックペースに対応出来ずにレース序盤から出遅れる苦しい展開でレースを進め、結果、加藤は終盤に大きく失速して 14'51'、石原は最後まで持ち前の粘りの走りを披露したものの 15'04'、松本は、全くレースに参加させてもらえずに 15'59' でレースを終えました。

加藤は積極的なレースが出来たものの、まだ中盤以降に課題を残し、石原はここまでのレース結果から大きく見劣りしませんが、久々の 15 分台をマークした点に課題、松本はトラックレースのペース適応に課題と、3 選手とも今後の課題克服に期待します。

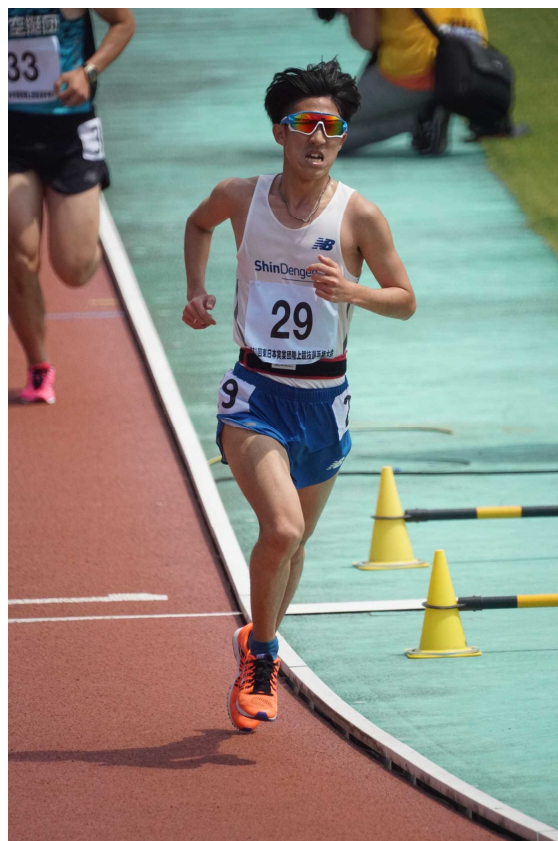
ShinDengen /



加藤選手



石原選手



松本選手

出場種目・出場者・リザルト

| 氏名 | 親崎 | 西沢 | 渡辺 |
|-----|----------|----------|----------|
| 開催日 | 5/19 | 5/19 | 5/19 |
| 種目 | 5000m | 5000m | 5000m |
| 組 | 2組目 | 2組目 | 2組目 |
| タイム | 14'24"81 | 14'37"21 | 14'47"94 |
| 順位 | 6/35 | 18/35 | 23/35 |

【レポート】

2組目には、昨日の10000mから連戦となる親崎、西沢に加え、このところ一気に調子の上向いてきた渡辺がレースに出場しました。

レースは、昨日の疲れを感じさせない新人の西沢がスタートから初々しく思い切って先頭集団を引っ張り、1000mを2'45"、2000mを5'41"とハイペースで展開します。

2000m以降はさすがに先頭を譲り、その後は変わって、こちらも昨日の疲労感を感じさせない走りを見せる親崎が先頭集団の絶好の位置でレースを進め、最後まで必死に粘った親崎が懸命のスパートで自己ベスト記録を更新する14'24"でゴールしました。

西沢も序盤に先頭を引っ張った疲れを感じさせずに最後まで諦めずに粘り14'37"のタイムでゴール、調子が上向いて期待の掛かった渡辺は、中盤以降は伸びずにスタミナの課題が露呈したものの14'47"でゴールしました。



集団を引っ張る西沢選手



親崎選手



渡辺選手



自己ベストをマークした親崎選手

【総括】

これまでのシーズンでは春季を迎えても故障者が多く、思ったようにレース出場も叶わないといったチーム状態の年が当たり前となり、モチベーションも下がる中で、チーム状態をいかに上向けるかばかりを考えて前半シーズンを終えていました。

今年は、昨年後半から選手達がチームとして真に強くなろうとする、必ず強くなれるという意識を持って競技やチーム運営に主体的に参加し、自己実現を目指していることが昨年までとの大きな違いであり、それが少しずつ成果に現れてきています。

また、昨年入社した親崎、新人の西沢といった有望な若手が、その走りでチームに勢いをつけている点もチームそして他の選手達の前向きな姿勢に追い風となっています。

今後も強化チームではない私達がアマチュアイズムを持って、仕事に競技に精一杯取り組むことで、少しでも皆様に元気を与えられるよう、変わらぬ努力を続けて参ります。引続きまして、当社チーム、選手への温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上